

1 出題の意図

課題文は渋谷望『魂の労働 ネオリベリズムの権力論』（青土社，2003年）の一部である。課題文は、介護労働の社会化について書かれたものである。日本は超高齢化社会を迎え、介護の問題が家族の問題から社会的な問題として介護を「労働」と捉え、家族だけではなく社会全体で取り組んでいかなければならない。しかし、介護が未だ一種の家事労働として考えられてしまう。その課題を「感情労働」という概念から産業労働と比較することによって、労働としての介護をあぶり出し、介護労働の社会化を訴えるものになっている。

設問は、現代の高齢化社会の重要な問題である介護を取り上げ、問1、問2において前後の文脈から読み取る読解力や要約力を問う。さらに問3において、上記の問題について、公民科でも扱う社会保障等の福祉の問題や労働問題、労働の疎外等の知識を駆使して、受験生の直面する社会問題に対する意見の論理力と自身の考えを提示する力を問う出題とした。

2 評価のポイント

問1

介護労働者に内包される「二重性」について、課題文の記述をふまえた説明を求める問題である。この二重性は、「対人関係的な愛情をともなった相互行為」と「単なる身体行為（労働）」を指し、その二つの要素が明確に区別されず、「ボランティア精神」や「福祉の心」へと翻訳され、労働としての側面が不可視化されてしまうことを記述することが求められる。それぞれのキーワードを適切にふまえることが評価において重要なポイントである。

問2

上記の二重性が内包された介護労働が共通性をもつ、「感情労働」とよばれる労働カテゴリーについて、課題文をふまえて的確に説明することを求める問題である。「感情労働」は、課題文中に記述されているように、「対面的な人間関係のなかで自己の感情管理を引き受ける労働」である。さらに、それを「商業的に利用する」こと、「日常生活全般における感情の自己管理と区別される」ことも重要なポイントである。

問3

この文章のキーポイントである感情労働と産業労働の違いを簡潔に説明したうえで、感情労働と産業労働のそれぞれの特徴を述べる。さらにそれぞれの長所と短所を明示して比較できると良い。それを踏まえて、介護の社会化の必要性を論じる。そして、最後に介護の社会化を果たすための自らの意見を論じられることが必要である。

3 講評

問1

課題文の前半の内容を理解し、上記のキーワードをふまえて解答した受験生が多かった。しかしなが

ら上記の二つの要素が「区別されない」、「労働としての側面が不可視化される」ことを明確に記述していなかった解答例もみられた。介護労働には、上記の二重性が「依然としてつきまとっている」という筆者の文意を正確にまとめた解答は多くなかった。

問2

課題文の中盤に記述されている内容の要約が中心となるが、上記のすべてのポイントをふまえた解答は少なかった。とくに「感情労働」が日常全般における感情の自己管理と区別されるという点について記述することは重要であったが、見落としてしまっていた回答がみられた。問1と同様に字数が限られている設問では、キーワードを並べるだけでなく、筆者の主張を端的にまとめる文章力が必要であった。

問3

評価のポイントでも示した通り、前段の「感情労働と産業労働の違いを簡潔に説明したうえで、感情労働と産業労働のそれぞれの特徴を述べる」ための文章の読み取りが不十分である解答が散見された。後段の「これからの介護労働のありかたについて、あなたの意見を述べなさい」とあるが、前段で述べたことを踏まえていない解答も多かった。介護の社会化という課題が感情労働という産業労働と比較して家事と混同され、労働としての社会的認知が未分化であるということが明確に読み取られていないことが原因のひとつであろう。後段は、決して独りよがりの意見や提案をせよということではなく、あくまでも与えられた文章を正確に読み取ったうえで、この文章における筆者の主張を踏まえての意見であるということを強調しておきたい。